

文化財のデジタル化と活用に関する 教育プログラムの開発

Education program development on practical use
and digitization of cultural heritage

馬場 美智子 Michiko Banba / 研究員
現：兵庫県立大学准教授



研究目的

近年、文化財の保存に加え、国際的な文化交流や観光分野における活用の効果が認識され、デジタル文化財への関心が高まってきた。そのため、文化財の記録・活用の必要性は増し、大規模な文化財関連施設の設置が急速に進展しているが、同分野の技術とそれを担う人材の育成は未だ不十分で、現場の実情に即した学術的基盤の形成と実務的技術の普及は喫緊の課題である。このような中、文化財デジタル化に関する日本発の最先端技術を最大限に活用し、自然科学と人文科学的方法の融合による歴史的遺産の記録・活用を実現するためのデジタル化技術基盤の確立を目標とした研究交流と人材育成の取り組みは非常に重要である。そこで、文化財のデジタル化と活用に従事する研究者や実務者の養成を目的として、自然科学と人文科学的方法を融合し、デジタル化技術を用いたアジア文化遺産の記録と活用に関わる国際共同研究・教育プログラムを実施する。

研究内容

京都大学工学研究科で開発された文化財専用先端イメージング技術により取得した超高精細デジタル画像を用いて文化財の新たな価値の創造を目指す教育プログラムを開発し、デジタル化の実践的プロセスを通して対象国の研究者・実務者の能力向上をめざす。

教育・研究機関、博物館、観光機関等の研究者・実務者等が参加した研究協力体制を構築し、対象文化財の検討・選定、文化財のデジタル化、コンテンツ化、ディスプレイ（表示）、デジタル画像の科学分析、文化財コンテンツの活用法等の実践的課題に共同で取り組む。

また、文化財の多様な研究・実務領域に対応した文・工学両分野の科学的知識を兼ね備え、デジタル技術等も駆使できる国際的な若手文化財研究者・高度専門技術者の養成を目的として、研究者や実務者を対象とした講義や実習を行う。

教育プログラムの内容は以下とする。1. デジタル画像の画質評価とカラーサイエンス・画像処理の基礎と実践、2. 大型非接触超高精細画像取得装置を用いた画像取得とカラーマネージメント、3. 高精細デジタル画像を用いたデジタル修復の実習、4. マルチメディア型文化財コンテンツ作成、5. 文化財公開活用（先端イメージング技術を基盤とする新しい展示方法を取り入れた未来型博物館展示プロジェクトの実践教育）

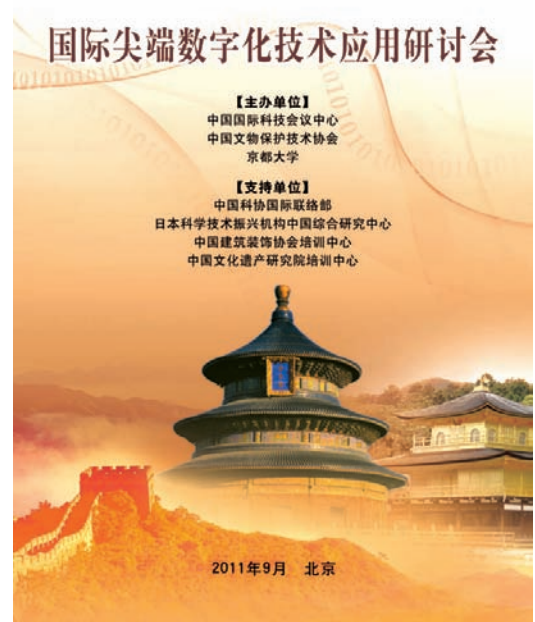


fig1. Application of Advanced Digital
Technology Course Program



本プロジェクトは、文部科学省「平成23年度政府開発援助ユネスコ活動」の助成を受けて実施している。